

吉田俊栄の独り言 その五

2月19日 寒い日

日本武道館でのエリック・クラプトンのコンサートに行きました。(若い信者さんにこのことを話したら、目を満丸にして驚いていました。お坊さんがロックコンサートに行ってもいいですよー)私にとって中学生の頃からのスーパーアイドル、ギターも歌もサイコーなのです。でも、彼のカッコ良さはそれだけではなく、人生に一生懸命向き合うそのひたむきさが素晴らしいんです。親友の奥さんに恋をして悩み、その葛藤からアルコール中毒となってしまう、友人たちの支えによってカムバック、そして結婚、念願の子宝を授かり、すべてが順風であったのも束の間で、5歳の息子を事故で亡くしてしまったのです。彼は喜び、悲しみ、そのすべてを歌で表現してきました。あるがままの自分をさらけだせるからカッコいいんです。「俺、すごいだろう」「私、きれいでしょ」程度の低レベルじゃないんです。つらいこと、悲しいことに翻弄されてボロボロになっても自分の成すべき道を求め続けるその姿に感動するのだ、と思います。

誰でも、苦しみ、悲しみを受け入れることが出来たときに優しさが大きく、深くなるはず。だからこそ、生きてることが素晴らしいんですね。

「カッコいいおじさん」になりたいと思いました。がんばろーっと！

4月 日 晴れ

昨年のことですが、長男ヒロアキの小学校入学式に参列しました。遠い昔の自分のとき以来ですから、ワクワクしながら式に臨みました。緊張しながらもせいっぱい背を伸ばして入場する子どもたちの姿に思わずニコニコになりました。ところが、式中場内はざわついていきます。よく見てみると、参列している父兄のおしゃべりがあっちで、こっちでと、中には式のことなどうわの空で携帯メールをする人もいたり、校長先生のスピーチが聞こえないほどでした。「これが噂のモンスターペアレントなのだ！」とがく然としました。進学塾に通わせ、有名校に行かせることには真剣であっても、礼節、こころの在り方、生きていくうえで大切なことを教えることはできないのです。大人、親の役目とは何なのでしょう。私たち「大人」は社会人になると勉強しなくなります。人として、親として、生きていく中で大切なことは、死ぬまで勉強、ではないのでしょうか。

近所の子どもたちが遊びに来て挨拶が言えないと「こんにちは、って言おうね」家にあがるときは「おじゃまします、って言おうね」と伝えるようにしています。ときにはビシッと叱ることも。だってみんな可愛いんですよ。彼らには「怖いおじさん」かもしれませんが。「ゲームばかりしないで外で遊ぼうぜー」と声をかけると一緒に公園で野球をしたりして遊んでくれるんですね、私も彼らと真剣に勝負します。(大人げないですが)だから、思い切り楽しいですよ。いい学校に行かせたい、というのは親の勝手に、子供には自分の世界があるわけです。こちらの人生観を子供の上にふたをしてはいけないなあと思います。

お父さん、お母さん、もっともっと 学びましょう 俊栄 拝